

科目名	生活と政治	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群	
			全学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Introduction to Politics	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
ふりがな	なかむら いつはる	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	中村 逸春	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	この授業では、政治学のさまざまな概念（民主政、共和政、権力など）について歴史を通して学び、政治について理解を深めます。			
到達目標	政治学の様々な概念について、古代から近代までの政治思想家の見解と関連づけて理解できるようになること。また、政治思想の歴史的展開について説明できるようになること。			
授業概要	この授業では、過去の政治思想家のテキストを参照することを通じて、政治学の諸概念（民主政、共和政、権力など）について理解を深めることを狙いとしています。また、思想家が生きた時代の社会的・政治的生活にも注目します。			
授業計画				
第1回	イントロダクション			
第2回	民主政①—古代ギリシャの政治と歴史			
第3回	民主政②—プラトンの哲学と民主政批判			
第4回	民主政③—アリストテレスの国政類型論			
第5回	共和政—古代ローマの政治とストア派			
第6回	国家と教会①—カトリック教会と叙任権闘争			
第7回	国家と教会②—中世盛期のスコラ哲学とトマス・アキナス			
第8回	講義の復習と質疑応答			
第9回	政治と権力—ルネサンスとマキアヴェッリ			
第10回	国家と教会③—ルターの二王国論			
第11回	国家と教会④—カルヴァンと神権政治			
第12回	抵抗権、寛容、主権—宗教内乱とボダン			
第13回	結社と共同体—英米のピューリタニズム			
第14回	近代の民主政			
第15回	講義の総括			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	何度か小テストを行うので、次回の講義までにノート、レジュメ、資料を読み返し、復習しておくこと。(2.0時間程度) 新聞等の記事に日々目を通すようにすること。(2.0時間程度)			
履修条件 受講のルール	高校で世界史または倫理の授業を受けていれば理解しやすいと思われるが、必須の条件ではありません。 講義中の私語は禁じます(退出を求める場合があります)。			
テキスト	教科書は、特に指定しません。			
参考文献・資料	宇野重規『西洋政治思想史』(有斐閣、2013年)、川出良枝・谷口将紀編『政治学』(東京大学出版会、2012年)。その他の参考文献については、その都度紹介します。			
成績評価の方法	小テスト(30%)、レポート等(30%)、最終試験(40%)によって、授業内容の理解度をみて評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。			

オフィスアワー	木曜・金曜 14:00～15:30 (これ以外の時間帯に面会を求める場合は、メール等で事前にアポをとること)
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	政治に関心のある人だけでなく、歴史や哲学に興味のある人にお勧めです。また、この授業は、教職の選択科目になっています。